

## 会長就任のご挨拶



溝口 理一郎  
(大阪大学)

このたび、本学会の会長の大役を引き継がせていただくに当たり、一言ご挨拶申し上げます。本学会も創設後20年の節目を迎えて、次なる10年を目指した大いなる飛躍を考える極めて重要なときにあることに思いを致し、今、その重責を実感しています。ここで、この大切な節目にあたり、現在見られるAI復権の兆しをしっかりと捉え、人工知能研究のさらなる発展のために有効と思われるいくつかの方向について考えてみたいと思います。Web 2.0の向こうを張って「AI学会2.0」を掲げて頑張るような派手なパフォーマンスは致しません。しかし、学会運営はボトムアップで全員参加型であるという意味ではそのような動きと共感するということは否定できないところでもあります。いずれにしても、地道で着実な手法の積み重ねで学会活動のさらなる活性化と発展を目指したいと思いますが、基本精神としては、

- (a) 人工知能研究の本質である先端的研究を促進する研究者マインドの問題
- (b) 学会の研究範囲の拡大
- (c) それらを側面から支える学会活動の強化

の三つを考えています。(a)の研究者マインドに関して最も重要なことは、知能に関する先端的な研究で、研究者個人がおもしろいと思える研究を強気に推進する姿勢にあると思います。役に立つか、すぐに解けて論文になるか、流行っているか、などという雑念にとらわれず、とにかくおもしろいことをするという姿勢が人工知能研究には必須でしょう。この姿勢があればほかの問題も自然に解決されます。この姿勢を別の角度から言い直すと、簡単なこと、すぐにできそうなことばかりをやるのではなく、(おもしろいが)難しい問題、すぐには結果が見えない問題に長期的な展望をもって取り組むべきであるともいえます。

(b)の研究分野の拡大は、異分野交流の勧めということもできます。人工知能は、本質的に隣接分野との交流が必要です。極端な言い方をすれば、知識を扱う知識処理研究は、知識が存在するすべてのドメインとの交流が不可欠です。これはある意味で応用を意識した発言に聞こえるかもしれませんが、基礎的課題にしても、認知科学、脳科学、インタフェース、ロボティクス、言語学など枚挙にいとまがありません。学会活動の拡大という言葉に隠された私の意図に、いわゆる人工知能研究(学界)と産業界の交流の活性化もあります。使われるAI技術、役に立つAI技術、それを支えるAI基礎研究などが有機的に連携して、産業界に受け入れられるようになり、産業界と学界の研究者・技術者が積極的に交流・協力して研究活動が行われることを期待したいと思います。これらのことは論文の評価基準とも大きく関連します。学会としては、どのようなタイプの論文を価値あるものとするかということを明示する義務があり、それは長期的には学会活動に大きく影響します。上で述べたことから帰結される、多様な価値観に基づいた論文評価基準づくりも重要です。AIフロンティア論文は新しいタイプの研究を促進することを目指して導入されましたが、現状は極めて高度な論文のみが対象となると捉えられてしまっており、当初の意図が正しく反映されているとはいえない状況にあるので、さらなる検討が必要かもしれません。基礎研究と応用研究との乖離も改善すべき課題であり、基礎研究者層の拡大も重要な課題です。

そして、上述の目標を目に見える形で学会として取り上げて、支援や活性化の活動をすることは意義深いと思われる。具体的には以下の課題が当面考えられます。

1. 人工知能研究ビジョンの検討も視野に入れた、論文査読基準の斬新な改訂やAI学会の論文のあり方の模索
2. 会員・企業へのサービスの見直し
3. 会員増、賛助会員増キャンペーン
4. 研究会の見直し
5. 全国大会、研究会などへのシニア研究者の参加促進
6. 学会の国際化、国際的活動の活性化
7. 企業との共同研究の活性化など

人工知能学会は永遠の青年学会でなければいけないと思います。成熟することは悪だと思ってもよいのかもしれませんが。成熟すると守りに入るからです。挑戦する精神を失わず、ワクワクすること、ドキドキすることにやりがいを見いだす気持ちを失ってはいけないと思います。皆さん、読んでおもしろかったと言ってもらえる論文を書きませんか？ 読んで参考になったという論文は、けっして、定式化が完璧になされて、しっかり評価して効果があったことが示されていることが必須ではないはずです。読んでおもしろかった論文は、自分の研究者精神を鼓舞してくれる論文であるはずです。少くく穴があっても、自分の研究に何か良いヒントをくれた論文であるはずです。完璧な定式化や万全の評価は二の次です…。少し過激になってきましたので、これくらいにします。

これらのことを活性化委員会の活動を中心として地道な活動の積み重ねによって、我が国における人工知能研究・開発の活性化につなげていきたいと考えています。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。